

嵐の前の静けさか？

The calm instead of the storm

突然始まったエルニーニョ現象の影響で、2006年のハリケーンシーズンは穏やかだった。

doi:10.1038/news061127-10/30 November 2006

Heidi Ledford

2006年は大西洋のハリケーンが猛威をふるう1年になる、と誰もが予測していた。その前年には、ハリケーン「カトリーナ」が米国のメキシコ湾岸地域を襲い、1500人以上の人命を奪い、800億ドル（約9兆4400億円）を超える損害を与えていた。また、ハリケーン（最大風速時速119キロメートル以上）に次ぐ規模の熱帯性低気圧であるトロピカルストーム（最大風速時速63～118キロメートル）も、アルファベット順の名前がなくなるほど数多く発生していた。2005年のハリケーンシーズンは通常よりも長く続き、2005年の最後のトロピカルストーム「ゼータ」は、年を越えて2006年1月6日ようやく熱帯低気圧に弱まった。当然、研究者だけでなく一般の人たちも、2006年も引き続き平均を上回るシーズンになると気を引き締めていた。

しかし、ふたを開けてみると、2006年のハリケーンシーズン（6月1日～11月30日）に発生した大西洋ハリケーンは5つだけに終わった。この数字は、米海洋大気局（NOAA）が予測した発生数よりも、3～5つも少なかったことになる。また、カテゴリー3、つまり風速が時速178キロメートル（秒速50メートル）を超える「大型」ハリケーンとなったのは、「ゴードン」と「ヘレネ」の2つだけだった。これは、強いエルニーニョのためにカテゴリー3のハリケーンが1つしか生まれなかった1997年以来の少なさだった。さらに、実際に米国に上陸したハリケーンは1つもなく、「アルベルト」、「ベリル」、「アーネスト」の3つのトロピカルストームが上陸しただけにとどまった。2006年の損害の大部分は「アーネスト」によるもので、ノースカロライナ州とヴァージニア州に約1億ドル（約118億円）の損害を与えた

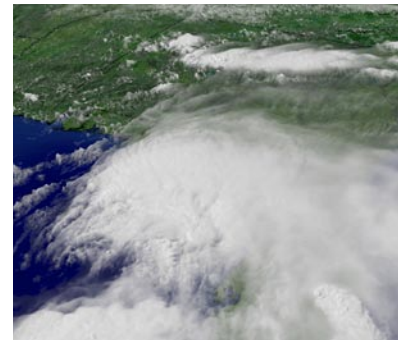
が、前年の「カトリーナ」と比べれば小さかったといえるだろう。

コロラド州立大学（同州フォートコリンズ）のPhil Klotzbachは、「確かに2006年は不思議なシーズンだった」と話す。

完全に外れた予報

2006年5月、米海洋大気局およびコロラド州立大学のチームは共に、2006年は平均よりもハリケーン発生数が多くなるとの予報を発表した。その時点では依然として、ハリケーンの活動が活発なシーズンになると思われていた。海面水温は平均よりも高く、それは発達している暴風雨に多くのエネルギーが供給されることを意味した。また、暴風雨を分裂させ、未熟なハリケーンが発達するのを妨げる風向の変動も小さいと予想された。そして、大西洋では1995年以降、それまでの平均を上回る活発なハリケーンシーズンが続いていた。その後8月にハリケーンの予測発生数をマイナス修正したが、それでもなお危険な兆候がみえると警告していた。

「当時、弱いエルニーニョの兆しは既にあった」と、海洋大気局ハリケーンセンター（フロリダ州マイアミ）のGerald Bellは話す。しかし、エルニーニョはその後8～9月に突然、急激に強まり、通常はピークを迎えるハリケーンの活動を鈍らせた。予報官たちは不意打ちをくらった形となった。エルニーニョとは太平洋赤道付近の海面水温が上昇する現象のことで、大西洋の風のパターンにも影響しうる。その風が未熟な暴風雨を分裂させ、発達するのを妨げたのである。Bellは、「エルニーニョの予報技術は蓄積されているが、夏の数か月間のエルニーニョ予測はまだ困難だ」という。



最大風速が時速110キロメートルだった「アルベルト」は、ハリケーンの種類基準には届かなかった。

Klotzbachは、エルニーニョに加えて、8月に大西洋の熱帯海域を横切った乾燥してほこりっぽい未解明の気流も、暴風雨の発生数が少なくなった要因だと考えている。この気流の原因ははっきりしないが、Klotzbachによると、アフリカ・サヘル地域南部の、特に乾燥した乾期のせいかもしれないという。

果たして今年は

大西洋のハリケーンシーズンが比較的穏やかだったため、地球温暖化によってハリケーンが活発になっているという議論はややトーンダウンしたようにみえる。しかし、ほかの地域でトロピカルストームの活動が顕著に弱まったという兆しはない。昨年、東部太平洋で発生したハリケーンの数も10個で、米海洋大気局が同年5月に予測した最大値よりも2個多かった。またフィリピンでは、「ドリアン」（台風21号）をはじめとする大型台風が立て続けに直撃し、深刻な被害をもたらした。

2007年がどうなるかを予測するにはまだ早すぎる、とBellはいう。「ハリケーンの活動が活発な時代が終わりつつあるという兆候はない。昨年はほんの小休止ととらえるべきだ」と彼は話す。■